文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 〔シ05〕

研究組織　二神葉子、塩谷純、江村知子、小林公治、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、田代裕一朗、城野誠治、谷口毎子、安岡みのり、酒井かれん、横尾千穂（以上、文化財情報資料部）
広報委員（情報システム部会）：友田正彦（文化遺産国際協力センター長）　各部署情報システム部会員：菅原章、安孫子卓史（以上、研究支援推進部）、橘川英規（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、倉島玲央（保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）
広報委員（年報部会）：早川泰弘（副所長）　各部署年報部会員：井上裕介、三本松俊徳、小杉則彬（以上、研究支援推進部）、小野真由美（文化財情報資料部）、前原恵美（無形文化遺産部）、秋山純子（保存科学研究センター）、金井健（文化遺産国際協力センター）

目　　的　**高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する光学調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行い、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。**

成　　果

1．デジタル画像の形成方法の研究開発

ア）所内の他プロジェクトとの連携、また、所外からの依頼により、岸田劉生油画作品、中之島香雪美術館所蔵《レパント戦闘図・世界地図屏風》などについて、調査研究や修理のための光学調査、記録作成を実施した。

イ）『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色春日権現験記巻十三・巻十四 光学調査報告書』を2022（令和4）年9月30日、『和宗総本山 四天王寺所蔵 扇面法華経冊子 光学調査報告書 カラー写真編』、同『近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』をそれぞれ2022（令和4）年11月22日、2023（令和5）年1月31日に刊行した。

ウ）ガラス乾板の色情報復元に関して、沖縄県立博物館･美術館での協議、タイ文化省芸術局所管の国立文書館などとの情報交換を行った。また、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を実施、琉球芸術調査写真〈鎌倉芳太郎撮影／〉の撮影に適用した。

2．文化財情報に関する調査研究

ア）文化財情報の適切な発信に関する調査研究を実施した。また、文化財の記録作成等に関する共同研究を北海道立北方民族博物館と開始、文化財の写真撮影の手引き作成や情報発信の手法について、同館と検討を行った。

イ）展示収蔵施設の学芸員、自治体の担当者などの文化財の実務家を対象に、6月2日に研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」を北海道立北方民族博物館において同館と共催、9月2日に「文化財の記録作成に関するセミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」を東京文化財研究所で開催した。

3．東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア）研究情報の発信の一環としてウェブサイトを運用し、ウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、東京国立博物館所蔵黒田清輝油画作品のうち《湖畔》などに関するウェブコンテンツを制作した。さらに、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じて、当研究所ウェブサイト更新情報を発信した。

イ）年報部会員と連携し、2022（令和4）年6月30日付で『東京文化財研究所年報2021』を刊行した。

ウ）研究成果紹介のためのパネル展示をエントランスロビーで行った。令和4年度は文化財情報資料部による「タイ・バンコク所在王室第一級寺院　ワット・ラーチャプラディットの漆扉」を展示した。

4．調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ア）各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と連携してセキュリティ水準の維持向上に努めた。また、情報システム･セキュリティ研修（2022（令和4）年10月20日開催）を含む所内の情報基盤整備・セキュリティ関連業務を、情報システム部会員と連携し行った。

イ）職員が所内で利用する端末をActive Directoryに参加させ、個別認証機能を強化した。さらに、VPNルータ及びDHCPの更新、来訪者用Wi-Fiの認証システムの構築を行い、所内ネットワークの安定運用に努めた。

論　文

- 城野誠治：「写真によって捉えた情報の考察」『扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』 pp.112-119　23.1

ほか4件

発　表

- 二神葉子：「写真・映像資料の記録と活用」　令和４年度 青森県立郷土館博物館の仕事普及啓発事業 講演会 22.12.7　ほか1件

刊行物

- 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書』22.9　ほか2件

ウェブサイトアクセスランキング（令和４年度　上位10位まで）

1	ガラス乾板データベース	6	異体字リスト
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	黒田清輝の代表作品
3	東京文化財研究所トップ	8	黒田清輝日記および久米桂一郎日記の日付順アーカイブ
4	書画家人名データベース	9	年紀資料集成
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史（彙報）	10	黒田記念館トップ

ウェブサイトの主な更新履歴（定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く）

年 月 日	更新内容	関係部局
22. 4 . 4	「大鼓の革製作の記録（短編）畑元 徹」（映像記録）公開	無形文化遺産部
22. 5 .17	「日本美術の記録と評価―美術史家の調査ノート」ウェブコンテンツ公開	文化財情報資料部
22. 7 .28	エントランスロビー展示「タイ・バンコク所在王室第一級寺院 ワット・ラーチャプラディットの漆扉」開催	文化財情報資料部
22. 8 .12	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 開催	保存科学研究センター
22. 9 .13	シンポジウム「分析化学の発展がもたらした文化財の新しい世界ー色といろいろー」開催	保存科学研究センター
21. 6 . 4	第16回公開学術講座『無形文化財と映像』開催	無形文化遺産部
22. 9 .14	第56回オープンレクチャー　かたちを見る、かたちを読む 開催	文化財情報資料部
22.10. 3	国際シンポジウム「メソポタミアの水と人：文化遺産から暮らしを見直す」開催	文化遺産国際協力センター
22.10. 3	「平尾良光論文アーカイブ」ウェブ公開	文化財情報資料部
22.10.21	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルスフォーラムⅣ「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」開催	無形文化遺産部
21.11.14	国際シンポジウム『考古学と国際貢献：バーレーンの文化遺産保護に対する日本の貢献』開催	文化遺産国際協力センター
23. 1 . 6	友田正彦文化遺産国際協力センター長が「カンボジア王国サハメトレイ勲章シュバリエ」を受章	研究支援推進部
23. 2 .15	【お知らせ】久下謙一氏（千葉大学）による「写真の保存と保護のための写真の基礎ーデータとしての写真ではなく、モノとしての写真の保存と保護を考える。」ウェブ公開	文化財情報資料部
23. 3 .31	「黒田記念館 黒田清輝油彩画 光学調査」公開	文化財情報資料部

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」(④シ05の一部として実施)

文化財（作品）の調査、目録作成、貸借時のコンディションチェックなど、写真撮影は文化財保護や学芸の実務のさまざまな場面で必要とされる。本研修会は、文化財情報の記録としての写真の撮影について、講義と撮影実習を通じて伝えるもので、文化財写真に必要な要件を知り、普段の業務での撮影の課題や疑問点を参加者で共有し合いつつ、実践を通じて解決の手段を共に考える機会とした。併せて、Microsoft ExcelやWindowsの基本機能を使った、簡易な写真整理や目録作成についても紹介した。

日　時：2022（令和4）年6月2日（木）　10：00～17：00
会　場：北海道立北方民族博物館
主　催：東京文化財研究所、北海道立北方民族博物館
参加者：11名
プログラム：趣旨説明　笹倉いる美（北海道立北方民族博物館）
講義　二神葉子（東京文化財研究所）「文化財の記録作成の意義」
城野誠治（東京文化財研究所）「文化財写真撮影の基本」
解説　二神葉子（東京文化財研究所）「写真の整理、及びデータベースとしての目録の作成について」
撮影実習　城野誠治（東京文化財研究所）
講評、参加者からの感想

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」(④シ05の一部として実施)

文化財を扱う博物館･美術館や自治体にとって、文字や写真による文化財や収蔵品の記録作成（ドキュメンテーション）は、調査研究･保存活用のための基礎的なデータを取得する活動である。博物館法上の博物館の役割としてデジタルアーカイブ構築の追加、ウェブでの情報公開の要請など記録作成の必要性が高まる一方、財源や技術、人材など現場の課題は少なくない。本セミナーでは、文化財保護の実務者を対象に、宮城県所在の館の学芸員からの記録作成及び情報発信の取組みの報告とともに、記録の保存や発信に不可欠な画像圧縮の利用に関する専門家による講義を行った。

日　時：2022（令和4）年9月2日（金）　10：15～16：30
会　場：東京文化財研究所　セミナー室
参加者：66名
プログラム：開会挨拶・趣旨説明　二神葉子（東京文化財研究所）「記録作成と情報発信」
講演　渡邉直登（仙台市歴史民俗資料館）「コロナ禍における神楽の伝承に関する記録映像作成事業」
今野咲（東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館）
「記録作成と情報発信の現状―「おうちで美術工芸館」の取り組みを中心に―」
今泉祥子（千葉大学大学院 工学研究院／融合理工学府創成工学専攻）
「「ディジタル画像の圧縮～画像の基礎から動画像まで～」第3回　画像圧縮の利用」
質疑応答

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラムⅣ「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」

(①ム01の一部として実施)

新型コロナウイルス感染症は今なお完全に終息したとは言い切れず、古典芸能を中心とする伝統芸能はその影響を受け続けている。しかし一方で、伝統芸能は継承し続けなければ途絶えてしまう。また継承のためには普及が欠かせない。こうした状況を受けて本フォーラムでは、新型コロナウイルス禍を視界に入れつつ、改めて今後の伝統芸能の普及･継承をどのように推し進めていけばよいのか、当研究所の研究員からの報告に加え、様々な立場で伝統芸能の普及･継承に取り組

『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書』

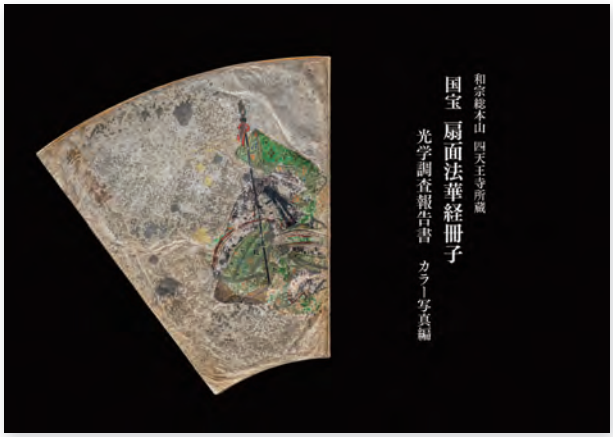
東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で実施する、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻の光学調査のうち、巻十三・巻十四に関する報告書である。さまざまな光源での撮影や蛍光X線分析による材料や技法に関する調査結果のほか、作品解説、座臥具に関する論考を掲載した。2022年9月刊行、232ページ。

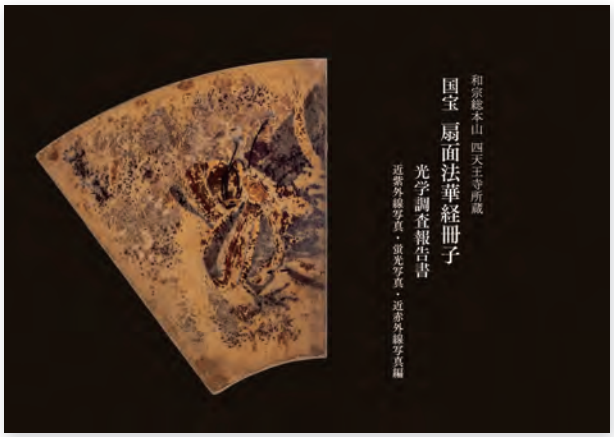
(④シ05の一環として刊行)

『和宗総本山 四天王寺所蔵 国宝 扇面法華経冊子 光学調査報告書 カラー写真編』

扇面法華経冊子は平安時代を代表する装飾経で、四天王寺には現存する六帖のうち五帖が所蔵される。本報告書には、2022(令和4)年の聖徳太子千四百年御聖忌にあたり、記念事業の一環として実施された「扇面法華経冊子」の光学調査の成果のうちカラー写真を掲載するとともに、作品解説、服飾表現に関する論考を掲載した。2022年11月刊行、320ページ。

(④シ05の一環として刊行)





『和宗総本山 四天王寺所蔵 国宝 扇面法華経冊子 光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』

扇面法華経冊子は平安時代を代表する装飾経で、四天王寺には現存する六帖のうち五帖が所蔵される。本報告書には、2022(令和4)年の聖徳太子千四百年御聖忌にあたり、記念事業の一環として実施された「扇面法華経冊子」の光学調査の成果のうち近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真及びそれらの写真によってとらえた情報に関する考察を掲載した。2023年1月刊行、216ページ。

(④シ05の一環として刊行)

『妙法寺蔵　与謝蕪村筆　寒山拾得図　共同研究報告書』

香川県丸亀市の妙法寺に所蔵される与謝蕪村筆「寒山拾得図」(重要文化財)は、1968(昭和43)年に損傷を受けたが、このたび1959(昭和34)年に東京文化財研究所が撮影したモノクロ画像と最新の高精細デジタル画像を用いて損傷前の復原襖を制作し、妙法寺と共同研究をおこなった。本書は、その共同研究の成果報告で、「寒山拾得図」のほか、妙法寺所蔵の蕪村作品群の高精細カラー画像や近赤外線画像を掲載する。2023年3月刊行、160ページ。

(①シ04の一環として刊行)